



摘果果実・規格外を食品に

開発支援の拠点開設 (栃木県) 食品ロス減狙う

栃木県は、摘果した果実や規格外農産物、食品製造工程で出る皮や切れ端などを食品に加工する拠点を整備しました。食品会社や6次産業化に取り組む生産者らに拠点を貸し出し、未利用資源の有効活用や新商品の開発を後押しする狙いです。

県産業技術センターを改装し、7月に「未利用食品等の素材化支援拠点」を宇都宮市に開所しました。原料として使用できる農産物かどうかを人工知能(AI)で判断する外観検査AIシステムや、食品を殺菌、乾燥、粉末にする機械など10台以上の機器を導入。使用料は1時間当たり数百円からと手頃です。

県外の生産者からも利用できます。食品製造の工程で発生した野菜くずを乾燥させたパウダーや、規格外の果実を使ったドライフルーツなどの製造を想定。試作品の開発から成分分析、品質評価までを支援し、商品化の判断材料にしてもらいます。

拠点の利用に当たっては、センターの職員がサポート。商品

化を目指す場合は、県の補助事業も活用できます。開発に興味がある企業や生産者向けに、機器の実演会やセミナーも定期的に開きます。

センターの菊池薫所長は「食品ロスの削減や新たな収益源の確保に貢献したい。機器の導入で製造工程をスマート化できれば、人手不足の解消にも役立つ」と積極的な利用を促します。



外観検査AIシステムの精度を確認する県産業技術センター職員(宇都宮市で)

県によると、県の食品ロス発生量(2018年度)は、推計約12万4000トン。このうち45%を食品製造業者が占め、全国平均の2倍を超えています。

(日本農業新聞 2024年10月6日)

農業技術ピックアップ

葉ネギ用指定混合肥料の
施用効果

「みどりの食料システム戦略」が掲げる「輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を30%削減」とする目標を達成するためには、堆肥の活用等を通じた土づくりが重要となります。

令和2年の「肥料の品質の確

保等に関する法律」の改正により、指定混合肥料は届出のみで生産・販売することが可能となりました。普通肥料と堆肥を配合・造粒した肥料で、一度の作業で、施肥と土づくりを同時にできるメリットがあります。

指定混合肥料は、各肥料メーカーが製造を始めていますが、その評価はまだ定まっていません。そこで、葉ネギ用に開発された指定混合肥料の施用が葉ネギの収量・品質に及ぼす影響を調査しました。

葉ネギ用の指定混合肥料(N-P-K=16-9-11)は、既存の指定混合肥料に、被覆窒素肥料をブレンドした粒状配合肥料(図1)です。夏まき秋どり、秋まき冬どりの作型で葉ネギの栽培試験を行いま

した。

葉ネギ用指定混合肥料を施用した葉ネギの生育および収量は、慣行の被覆窒素入り配合肥料を施用した場合と同等以上でした(表1)。本肥料により省力的に有機物を土壌に供給でき、効率的な土づくりが期待できます。



【図1】葉ネギ用指定混合肥料

粒状肥料のため従来の作業体系での施用が可能

【表1】収量調査

試験年次	試験区	優2L 秀2L		規格別重量(g m ⁻²)		規格比率(%)	規格品収量(g m ⁻²)	SPAD値
		優2L	秀2L	秀L	秀M			
2021 (秋まき冬どり作型)	指定混合肥料	—	—	80.6	770.5	1146.7	685.5	74
	慣行肥料	—	—	12.0	441.8	1199.1	1074.2	61
2022 (夏まき秋どり作型)	指定混合肥料	50.2	195.1	2131.7	388.1	48.6	13.2	100
	慣行肥料	—	93.8	1878.2	432.1	51.9	16.9	99
2022 (秋まき冬どり作型)	指定混合肥料	—	13.4	2006.0	890.7	187.3	99.7	97
	慣行肥料	—	—	1337.2	1068.1	247.1	70.4	97
分散分析(夏まき秋どり作型)		—	—	—	—	—	n.s.	n.s.
分散分析(秋まき冬どり作型)		—	—	—	—	—	n.s.	n.s.

注)2021年秋まき冬どり作型:定植日10月12日、収穫日1月6日(定植86日後)。
2022年夏まき秋どり作型:定植日6月9日、収穫日8月8日(定植60日後)。
2022年秋まき冬どり作型:定植日9月27日、収穫日12月7日(定植71日後)。
注)葉色素計SPAD-502Iによる値。
注)分散分析結果について、*は5%水準、**は1%水準で有意差があること、n.s.は5%水準で有意差がないことを示す。

お問い合わせ先

基盤技術研究室 フード・循環研究課
☎0598-42-6361
中央農業改良普及センター
☎0598-42-6323

▼このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介しています。

JAバンクに相談しよう!

農業を営むすべての方に

農業
経営資金

JAバンク利子補給制度で
金利負担を軽減します

当初3年間
最大利子補給

年 1 %

農業経営に必要な資金として
幅広くご利用いただけます



トラクター・ドローンなどの
農業機械購入



栽培用
ハウス建設



畜舎建設



農地購入



農業運転資金



その他、農業経営に
必要な資金

取扱期限 2025. 3/31月

※JAバンク利子補給制度により、お借入れから3年後の応当日まで最大年1.0%の利子補給が受けられます

詳しくはお近くのJAバンクまでお問い合わせください

JAバンク三重 農業資金

検索

JAバンク

三重県下JA
JA三重信連

